

日本人学生向け留学説明会

工学部 佐藤 道郎

今年度が始まって1～2ヶ月経たころ新入生が私の部屋に訪ねてきた。用件は留学したいので話を聞かせてほしいということであった。私はそれに関する情報を多く持っているというわけでもなく、なぜ私のところへと不思議に思ったが、いろいろとたずね回って私のところに来たという。そこで、留学生係に電話して聞いたことを教えたことがあった。これまで国際交流委員会などを通して本学の国際交流を垣間見てきたが、留学生の受け入れの話が殆どで、本学の学生を送り出す態勢は整備されているとは言えないなという印象を持っていた。

自分の周りでは留学は大学院かそれ以上の話で、その情報はいろいろと入ってきており、それぞれのところで個別に考えるべき問題と認識していた。また、学部学生で留学の相談にくる者も無く、留学の世話をする必要性が意識に上ることも無くきたというのが実情である。しかし、自分の子供の進学との絡みでいくつかよその大学のパンフレットを見る機会があり、留学がキーワードの一つであることを知り、このままではいけないなという気持ちにもなっていた矢先に冒頭の新入生の訪問であった。

それから半年近く経って、留学生交流センター運営委員会で農学部から今年度の交換留学生を募集する話が出された折に、大学間交流協定を結んでいる大学に対して、過去のいきさつがあるとしても一学部で募集することはどうかという議論があり、全学部の留学を希望する学生を集めて説明会を行うこととなった。これは誰が担当すべきことかということになったが、留学生交流センターの規則によると私であるとのことであった。私は何が自分に課せられたことかも曖昧模糊としていたが、ようやく新入生が回りまわって私のところに来た理由がわかった。

説明会は11月25日の16時10分から共通教育棟の教室で行うということになり、私は案内のチラシを作ることになった。当日の段取りなどについては留学生係と大島先生をはじめ、当日、積極的に参加してお話してくださった先生方によるものである。何人ぐらい集まるのだろうかという点に関して、大方はそれほど集まることも無いだろうと思いながらもまさかに備えて普通の教室を用意したが、実際には50名弱の参加者があり、これからの国際交流は受け入れだけでなく派遣に関する態勢作りも大切であるとの認識を強めた次第であった。説明会は協定校への学部生の短期留学に関連して、各大学の事情に詳しい先生からの紹介があり、その後、さまざまな質問を受けた。漠然と留学したいというものから少し具体的なものにしていく上で参考になったものと思われる。

今後もこの説明会は協定校への派遣に先立って行われることになろうが、協定校に関する情報とともに、少ないながらも民間の奨学金による派遣プログラムもあり、そういった情報をどこで集約してどのように提供していくかといったことも検討していく必要がある。